

プライバシーは守られますのでご安心ください。

最後に次の文章をお読みください。

エイズの検査を受けるための献血ですか。

はい いいえ

(次画面) 献血でいただいた血液は、HIVなどの感染症の検査を受けてから患者さんに使われます。この検査は万全ではなく、ごく微量のウイルスは検出できません。あなたの血液が患者さんに輸血されれば、あなたが持っているかもしれないウイルスがそのまま患者さんに入ってしまうという事をよくお考えください。なお、血液センターではエイズウイルスの検査結果をお知らせしておりません。

この質問に「はい」とお答えになっても、次の質問の回答を続け、医師の問診を受けてください。プライバシーは守られます。

14. この質問への答えは医師のみが確認します。プライバシーは守られますのでご安心ください。この1年間に次のいずれかに該当することがありましたか。

- ① 不特定の異性と性的接触をもった
- ② 男性の方:男性と性的接触をもった
- ③ エイズ検査(HIV検査)で陽性を言われた
- ④ 麻薬・覚せい剤を注射した
- ⑤ ①~④の該当者と性的接触をもった

ご回答ありがとうございました。

はい いいえ

献血でいただいた血液は、エイズウイルスなどの感染症の検査を受けてから患者さんに使われます。この検査は万全ではなく、ごく微量のウイルスを検出することができません。特にここ数ヶ月間の性行為等によってエイズウイルスに感染した場合には、どのような検査でもウイルスを検出できない場合があります。このような時は、あなたの申告だけが患者さんへの感染を防ぐただ一つの方法です。あなたの血液が患者さんに輸血されれば、あなたが持っているかもしれないウイルスがそのまま患者さんに入ってしまうという事をよくお考えください。この問診票への回答にかかわらず、あなたがエイズウイルスに感染しているかもしれないとお思いの時は、次の医師の問診の際にお申し出ください。プライバシーは守られます。

理解しました

よくわからない(ここで問診表のプリントアウト)

印刷された問診表の右下の部分をよく読んで、署名をしてください。イニシャル等ではなく、あなたの本名が正しく読めるように書いてください。署名の終わった問診票を受付にお出してください。ご協力ありがとうございました。

システム画面（案）

Microsoft Access - [問診票開始画面]

ファイル 編集 挿入 フォント ウィンドウ ヘルプ

献血ルーム名: 献血ルーム 問診受付年月日:

問診票

あなたは当ルーム、本日 00001 番目の献血者です。
ご協力ありがとうございます。

あなたの献血者コードを入力してください。
献血者コードがわからない、または、
献血が初めてのの方は、「開始」ボタンを押してください。

献血者コード:

7	8	9
4	5	6
1	2	3
0	BS	C

①受付画面

Microsoft Access - [問診票開始画面]

ファイル 編集 挿入 フォント ウィンドウ ヘルプ

献血ルーム名: 献血ルーム 問診受付年月日:

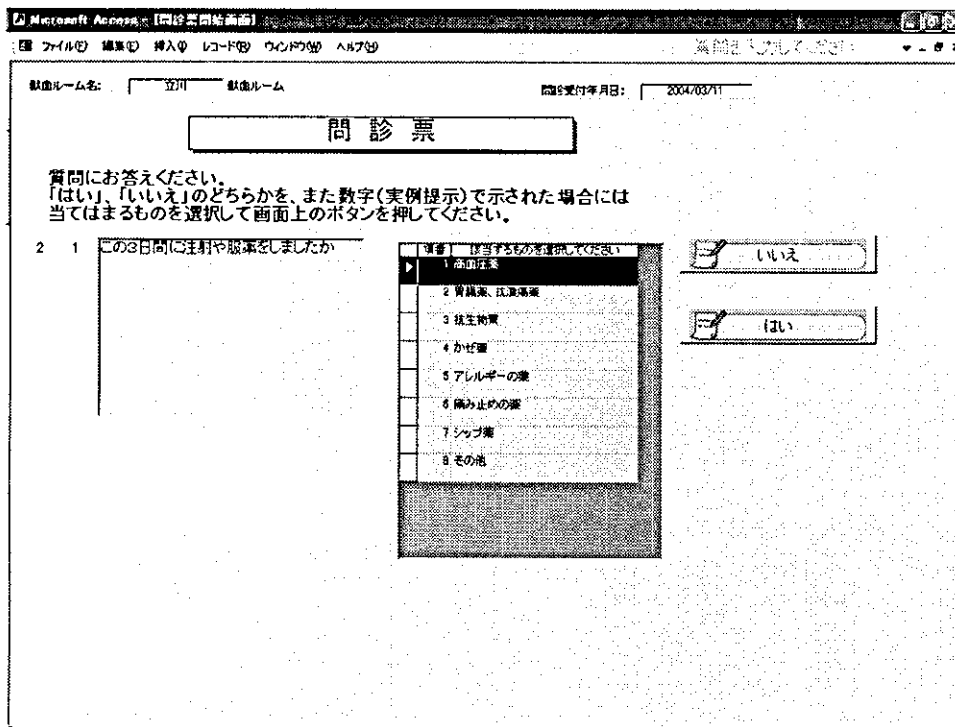
問診票

質問にお答えください。
「はい」、「いいえ」のどちらかを、また数字(実例提示)で示された場合には
当てはまるものを選択して画面上のボタンを押してください。

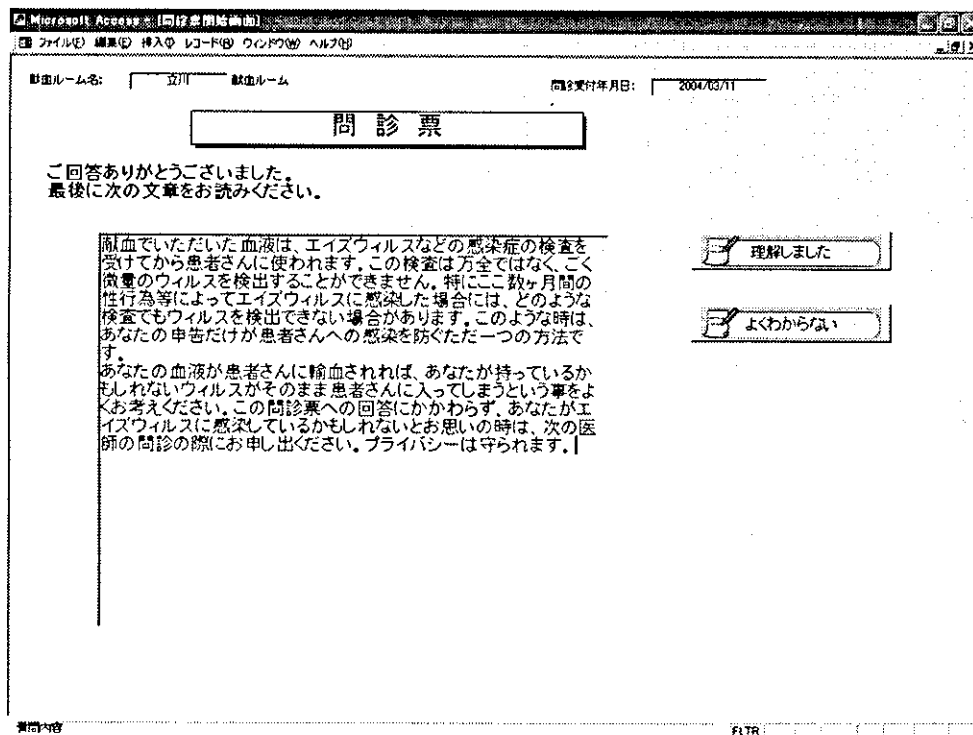
1 今日の状態はよろしいですか

項目	該当するものを選択してください
1	良かあるところ
2	睡眠不足である
3	疲労感があふ
4	吐瀉している
5	その他

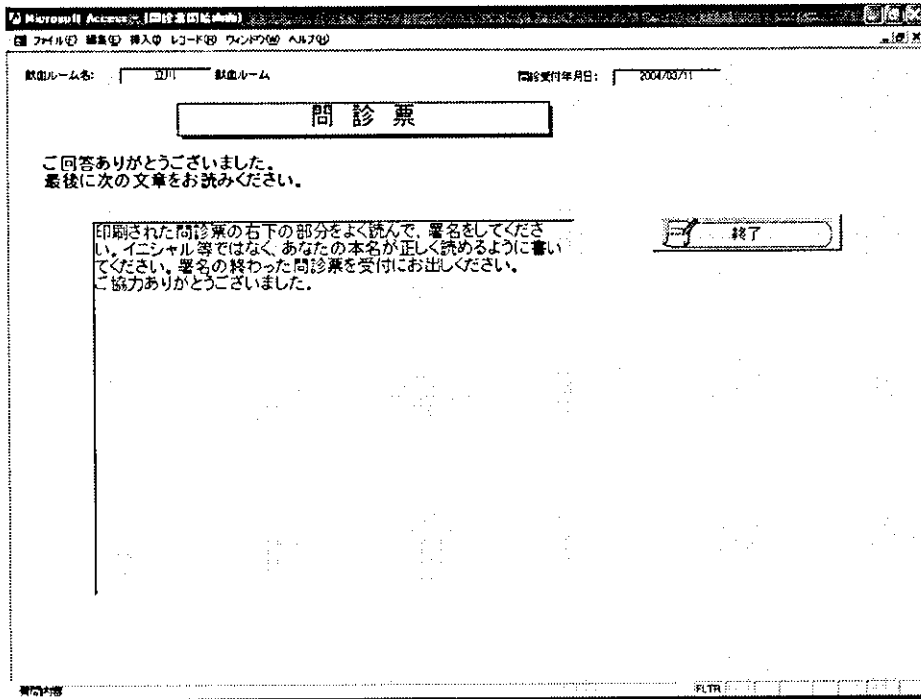
②問診画面



③次の問診画面



④回答終了画面



⑤印刷終了画面

平成14年度 厚生労働科学研究費補助金
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

献血者及び血液の安全性向上のための問診のあり方に関する研究

IV. 平成14年度総括・分担研究報告書

平成14年度 厚生労働科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)

献血者及び血液の安全性向上のための問診のあり方に関する研究

主任研究者 高野正義 財団法人血液製剤調査機構専務理事

献血における問診は、献血者に起こりうる危険の回避と輸血患者の感染防止を目的として実施されているが、献血後に起こる副反応や献血者における HIV 抗体陽性者数の増加等を考慮すると、問診の効果を評価、検証し、より効果的な問診のあり方を検討する必要がある。

分担研究者

中島一格 日本赤十字社中央血液センター
鴨 真一 日本赤十字社中央血液センター
佐竹正博 東京都赤十字血液センター
日野 学 日本赤十字社
河原和夫 東京医科歯科大学
七川博一 血液製剤調査機構
小口 隆 血液製剤調査機構

A. 研究目的

検査法の進歩にもかかわらず、献血者に対する問診は血液の安全性を確保するのに依然として重要である。また、献血者の安全を守るためにも、問診による献血適否判断は不可欠である。国民の献血に対する意識調査等により、献血者と血液の安全性向上のための「献血者に対する問診のあり方」を検討し、より効果的な問診を実施するために役立つ資料を得ることを目的とする。

B. 研究方法

1. 献血に関する一般市民の意識調査

首都圏に居住する16歳～49歳の一般市民1000人(男性522人、女性478人)を東京の4会場(渋谷、新宿、池袋、千歳烏山)に集め、別添に示す20の設問からなる質問票を用い、調査担

当者が直接面接して回答を得た。サンプル構成は、東京都の人口構成に準じた年齢構成とした。

2. 献血問診医に対する意識調査

東京都内の各血液センター及び献血ルーム、献血バス等の採血現場で献血者に対して問診等の医学的判断を行っている医師を対象に調査票を配布し回収集計した。

3. 海外における問診に関する現地調査

分担研究者2名が、英国、フランス、ベルギーの3カ国に出張し、問診に関する聞き取り調査を行った。

C, D. 研究結果と考察

1. 献血に関する一般市民の意識調査

- ・ 50%以上の方が、希望すれば生化学検査や感染症検査結果が通知されることを知っていた。これは献血経験者が多かった（59%）ことを考えれば当然である。
- ・ また、80%以上の方が検査結果の通知を重要な献血の動機と考えており、約60%の方は検査通知がなければ献血回数が減少すると考えている。ただし、19歳以下ではこれが50%である。
- ・ また、献血の際に金券や薄謝品の提供を求める傾向が若い世代ほど強いことが分かった。
- ・ 輸血によるウイルス感染の可能性については76%の人が認識しているが、19%は理解していなかった。また、19歳以下では、これが67%、22%であった。十分な検査をするので輸血感染は起こらないと考えている人は献血意向の強いほど多かったのは、血液センターの説明が十分理解されていないことを示していると考えられる。
- ・ 患者に輸血感染が起こった場合、献血者に責任があると考える人は多くないが（30%）、自分が献血した血液で感染が起これば責任を感じるという人は多い（73%）。更に、自分が病気に感染していることを申告しなかったために受血者が感染した場合は、ほとんど全て（96%）の人が責任を感じるという回答している。
- ・ HIV検査に関しては、自分が感染している可能性があるかと仮定した場合、16%が献血の検査結果で知りたいと回答した。最も手軽な検査の手段として、献血が動機の一つになっている可能性は否定できない。これは、保健所で匿名・無料でHIV検査が受けられることを知っている人が57%であり、献血者にHIV検査結果を知らせないと理解しているのはわずかに17%であることも影響していると考えられる。
- ・ HIV感染のリスク行動に関する質問に対しては、該当していたら「献血しない」と「正直に申告する」を合わせて77%であった。23%程度は虚偽の申告の可能性があることを示している。さらに、事後に匿名の連絡をすると答えた53%を考慮しても、約9%は虚偽の申告の可能性が残る
- ・ 献血時の本人確認については76%が理解しているが、9%は「義務付けられれば献血しない」と回答している。しかし、「献血しない」は献血意向のある人では5%程度であり、抵抗感は強くないと思われ、義務化ではない形で本人確認を導入することに問題はないであろう。
- ・ 我が国における献血率は4.6%で16歳～49歳では8%程度である。一般市民を対象とした今回の調査でも、献血経験者は同じ程度に予測していたが、実際には一年以内の献血経験者は21%（男性25%、女性16%）であった。街頭で一般の通行人に声をかけて調査に協力を求めたが、献血に関心のある人が多いサンプルになった。そのため、今回の調査結果は、一般市民の意識調査というより献血者、献血経験者、献血意向の強い人たちの意識をかなり反映したものであったと考えられる。

2. 献血問診医に対する意識調査

問診項目の主眼である、HIV等のウイルス感染の可能性のある者の排除については、ほとんどの初回献血者が、ウィンドウピリオドと献血との関係を理解していなかった。また、頻回献血者についても、約1/3の者がこれらの意味を理解していなかった。

この事実は、HIV等の感染の疑いがある者を排除するために設定されている問診項目「13」、「14」が

有効に機能していないことを意味している。意図するところを伝達するための工夫が必要であろう。

一方、献血問診医の多くは、国民に広くウィンドウピリオドと献血との関係を理解するための情報提供の必要性を感じていた。

HIV 検査目的の献血については、「ウィンドウピリオドに関する説明」を行ったり、「保健所等の検査施設を紹介する」という対応が多くとられていた。このことは極めて適切な措置で、献血問診医としての使命を果たしていると言えるだろう。

問「14」の質問項目の内容について、初回献血や頻回献血を問わず、献血者に説明していないとの回答が多かった。献血者の多くがウィンドウピリオドと献血との関係を十分に理解していない現状を考えると、この項目についてはなお一層説明に心掛けるべきであろう。

vCJD の献血制限理由の説明に対する理解度は、半数の献血者の理解にとどまっていた。献血者の理解度の向上が必要であろう。

献血の除外基準に基づくマラリア防止効果は、「ない」、「わからない」との回答が大多数を占めており、今後、輸入感染症対策を強化するためには、この方法を再考する必要があるだろう。

3. 海外における問診に関する現地調査

英国、フランス、ベルギー3カ国の問診に関する現地調査では、多くの情報が得られた。

血液センター側で、リスクのある献血者を排除する方策はいくつか実現可能である。たとえば、国民の識別番号を用いなくとも、個人を特定する書類の提示を求めることなどはフランスで実際にトラブルなく行われている。

献血者の責任を重視する考えかたはとくにフランスで取り入れられており、それによって献血数が減った記録もない。日本においても、本当に患者のために役に立ちたいと思っている健全な献血者を

獲得するために、この考えかたを少しずつ導入していく必要があると考えられる。

しかしながら、献血者を募集する側のみの努力では、リスクのあるドナーの献血への流入を防ぐことはできない。欧州において一般人よりも献血者層で HIV 感染率が低いのは、一般の医療機関がリスクを有する人々を容易に検査に受け入れている当然の帰結ともいえる。不安を持つ人は検査受け入れのしきいの低いほうに必ず流れる。したがって、一般社会での検査受け入れをよりしやすくすることが必須と考えられる。その意味では、日本の保健所での検査システムは非常に効率の低いものといわざるを得ない。不安のある人は、誰にも気付かれることもなく、どの診療所でも無料で検査が受けられ、また結果の返信もすばやいものでなければならぬ。

都内の献血者の中で HIV 陽性の人の約半分は連絡が取れない。それらの人々は何らかのリスクを自覚している可能性があり、献血よりも垣根の低い検査施設があればそちらを受診することが期待できる。あとの半分近くも、自分でも明確ではないが漠然と不安を感じていた人々がほとんどで、たまたま献血で感染していることが判明したともいえる。これらの人々に悪意があるとはあまり考えられず、HIV に関する知識が普及し身近な検査施設があれば、自覚が可能であると考えられる。国民全体としてみると、自分で感染していることを知らずに他人に HIV を感染させてしまうという感染経路が最も侵淫率を高めるものであるが、この経路こそが効果的な防御手段を考えうる場合でもある。献血のみならず、国民全体の健康のためにも、HIV に関するキャンペーンの強化と検査体制のいっそうの充実が必須のものとする。

E. まとめ

今回の調査の結果、①献血で自分の健康状態や感

染症の有無を知りたいと考える人が多いこと、②献血経験者ほど、十分なスクリーニング検査が行われるので輸血によるウイルス感染の危険はないと考えている人が多いこと、③献血した血液で患者に感染症が発生したら道義的責任を感じる人は多いものの、④献血時の問診で、性行動等に関しては虚偽の回答をする可能性が9%くらいあること、が分かった。検査だけでは輸血感染症を完全には防げないこと、特に感染初期は検査で検出できないこと、輸血感染症を予防するためにリスクのある献血をしないこと、そのためには問診に対する正確な回答が必要なこと、どのような行為が献血に適さないか、HIVの検査が無料・匿名で受けられる施設、等に関する情報を繰り返し提供し、国民の十分な理解を得ることが重要であると考えられた。また、献血に代わる手軽な HIV 検査の受検施設の整備とその周知が緊急の課題であろう。

また、献血時の問診を担当している医師に対して行なわれた調査によると、HIVとウィンドウピリオドの理解の問題やvCJDやマラリア等の新興・再興感染症対策を確実に進めることについて、現行の問診方法の問題点がわかった。

現場の問診医の意見も取り入れながら、最近の知見にも基づいた問診内容を時宜刻々と導入し、確実に実施していくことが重要であろう。同時に、問診医の問診水準の標準化など資質にも取り組んでいく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
予定あり
2. 学会発表
予定あり

H. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

献血者及び血液の安全性向上のための問診のあり方に関する研究

一般市民の献血に関する意識調査

分担研究者

中島一格 日本赤十字社中央血液センター

佐竹正博 東京都赤十字血液センター

河原和夫 東京医科歯科大学大学院

日野 学 日本赤十字社

鴨 真一 日本赤十字社中央血液センター

A. 研究目的

検査法の進歩にもかかわらず、献血者に対する問診は血液の安全性を確保するのに依然として重要である。また、献血者の安全を守るためにも、問診による献血適否判断は不可欠である。国民の献血に対する意識調査により、献血者と血液の安全性向上のための「献血者に対する問診のあり方」を検討し、より効果的な問診を実施するために役立つ資料を得ることを目的とする。

B. 研究方法

一般市民と献血者を対象に献血に関する意識調査を行う。今年度はまず一般市民の献血に対する意識調査を実施した。調査は別添の資料に示すような 20 の設問からなる質問票を用い、回答者を渋谷、新宿、池袋、千歳烏山の 4 会場に集めて、調査担当者が直接面接して回答を得た。

調査対象者は首都圏に居住する 16 歳から 49 歳までの男性 522 人、女性 478 人の合計 1000 人で、有効回答数も 1000 (100%) であった。調査対象者の年齢構成は、東京都の人口構成に準じた年齢構成とした。

C. 研究結果と考察

回答者の 59% (男性 66%、女性 50%) は

献血経験者であった。

50%以上の方が、希望すれば生化学検査や感染症検査結果が通知されることを知っていた。これは献血経験者が多かったことを考えれば当然である。

また、80%以上の方が検査結果の通知を重要な献血の動機と考えており、約 60%の方は検査通知がなければ献血回数が減少すると考えている。

また、献血の際に金券や薄謝品の提供を求める傾向が若い世代ほど強いことが分かった。輸血によるウイルス感染の可能性については 76%の方が認識しているが、19%は理解していなかった。十分な検査をするので輸血感染は起こらないと考えている人は献血意向の強いほど多かったのは、血液センターの説明が十分理解されていないことを示している。

患者に輸血感染が起こった場合、献血者に責任があると考える人は多くないが、自分が献血した血液で感染が起これば責任を感じるという人は多い。更に、自分が病気に感染していることを申告しなかったために受血者が感染した場合は、ほとんど全て (96%) の人が責任を感じると回答している。しかし、わずかであるが、あまり責任を感じないという人も存在する。

HIV 検査に関しては、自分が感染している可能性がある場合、16%が献血の検査結果で

知りたいと回答した。最も手軽な検査の手段として、献血が動機の一つになっている可能性は否定できない。これは、保健所で匿名・無料で HIV 検査が受けられることを知っている人が 57%と少なく、献血者に HIV 検査結果を知らせないと理解しているのはわずかに 17%であることも影響していると考えられる。

HIV 感染のリスク行動に関する質問に対しては、該当していたら「献血しない」と「正直に申告する」を合わせて 77%であった。23%程度は虚偽の申告の可能性があることを示している。さらに、事後に匿名の連絡をすると答えた 53%を考慮しても、約 9%は虚偽の申告の可能性が残る。

献血時の本人確認については 76%が理解しているが、9%は「義務付けられれば献血しない」と回答している。しかし、「献血しない」は献血意向のある人では 5%程度であり、抵抗感は強くないと思われ、義務化ではない形で本人確認を導入することに問題はないであろう。

我が国における献血率は約 4.6%(2001 年)である。一般市民を対象とした今回の調査では、献血経験者も同じくらいの比率と予測していたが、実際には回答者の 59%(男性 66%、女性 50%) が献血経験者であった。街頭で一般の通行人に声をかけて調査に協力を求めた

が、献血に関心のある人が多い調査結果であった。そのため、今回の調査結果は、一般市民の意識調査というより献血者、献血経験者、献血意向の強い人たちの意識をかなり反映したものであったと考えられる。

D. まとめ

今回の調査の結果、①献血で自分の健康状態や感染症の有無を知りたいと考える人が多いこと、②献血経験者ほど、十分なスクリーニング検査が行われるので輸血によるウイルス感染の危険はないと考えている人が多いこと、③献血した血液で患者に感染症が発生したら道義的責任を感じる人は多いものの、④献血時の問診で、性行動等に関しては虚偽の回答をする可能性が 9%くらいあること、が分かった。検査だけでは輸血感染症を完全に防げないこと、特に感染初期は検査で検出できないこと、輸血感染症を予防するためにリスクのある献血をしないこと、そのためには問診に対する正確な回答が必要なこと、どのような行為が献血に適さないか、HIV の検査が無料・匿名で受けられる施設、等に関する情報を繰り返し提供し、国民の十分な理解を得ることが重要であると考えられた。また、献血に代わる手軽な HIV 検査の受検施設の整備とその周知が緊急の課題であろう。

献血に関する調査
調査結果集計表

2003年3月

I. 調査の概要

- | | |
|-----------|---|
| 1. 調査の目的 | 血液製剤調査機構の実施する「献血者および血液の安全性向上のための問診のあり方に関する研究」の一環として実施 |
| 2. 調査地区 | 首都圏 |
| 3. 調査対象者 | 当該地域に居住する16～49才の男女個人 |
| 4. サンプル数 | 有効回収 1,000サンプル |
| 5. サンプル構成 | 東京都人口構成に準拠 |
| 6. 調査方法 | CLT(会場テスト) |
| 7. 実施地区 | 渋谷、新宿、池袋、千歳烏山等 |
| 8. 実施日 | 2003年3月1日(土)～3月6日(木) |

		全 体	問 1 . 生化学検査実施認知			
			認知者計	確かに知っていた	何となく知っていた	知らなかった
全 体		1000 100.0	572 57.2	313 31.3	259 25.9	428 42.8
性×年令	男性小計	522 100.0	287 55.0	161 30.8	126 24.1	235 45.0
	16～19才	41 100.0	17 41.5	9 22.0	8 19.5	24 58.5
	20～29才	174 100.0	88 50.6	48 27.6	40 23.0	86 49.4
	30～39才	178 100.0	103 57.9	53 29.8	50 28.1	75 42.1
	40～49才	129 100.0	79 61.2	51 39.5	28 21.7	50 38.8
	女性小計	478 100.0	285 59.6	152 31.8	133 27.8	193 40.4
	16～19才	40 100.0	14 35.0	9 22.5	5 12.5	26 65.0
	20～29才	159 100.0	92 57.9	58 36.5	34 21.4	67 42.1
	30～39才	159 100.0	90 56.6	42 26.4	48 30.2	69 43.4
	40～49才	120 100.0	89 74.2	43 35.8	46 38.3	31 25.8

		全 体	問 1 . 生化学検査実施認知			
			認知者計	確かに知っていた	何となく知っていた	知らなかった
全 体		1000 100.0	572 57.2	313 31.3	259 25.9	428 42.8
年令	16～19才	81 100.0	31 38.3	18 22.2	13 16.0	50 61.7
	20～29才	333 100.0	180 54.1	106 31.8	74 22.2	153 45.9
	30～39才	337 100.0	193 57.3	95 28.2	98 29.1	144 42.7
	40～49才	249 100.0	168 67.5	94 37.8	74 29.7	81 32.5
献血経験別	献血経験者	585 100.0	413 70.6	265 45.3	148 25.3	172 29.4
	1年以内経験あり	206 100.0	192 93.2	156 75.7	36 17.5	14 6.8
	1年以内経験なし	379 100.0	221 58.3	109 28.8	112 29.6	158 41.7
献血意向	献血未経験者	415 100.0	159 38.3	48 11.6	111 26.7	256 61.7
	献血意向あり	560 100.0	388 69.3	235 42.0	153 27.3	172 30.7
	どちらともいえない	275 100.0	132 48.0	53 19.3	79 28.7	143 52.0
	献血意向なし	165 100.0	52 31.5	25 15.2	27 16.4	113 68.5

		全 体	問2. ウィルス検査実施認知			
			認 知 者 計	確 か に 知 っ て い た	何 と な く 知 っ て い た	知 ら な か っ た
全 体		1000 100.0	533 53.3	250 25.0	283 28.3	467 46.7
性 × 年 令	男性小計	522 100.0	280 53.6	141 27.0	139 26.6	242 46.4
	16～19才	41 100.0	15 36.6	8 19.5	7 17.1	26 63.4
	20～29才	174 100.0	88 50.6	48 27.6	40 23.0	86 49.4
	30～39才	178 100.0	102 57.3	41 23.0	61 34.3	76 42.7
	40～49才	129 100.0	75 58.1	44 34.1	31 24.0	54 41.9
	女性小計	478 100.0	253 52.9	109 22.8	144 30.1	225 47.1
	16～19才	40 100.0	17 42.5	8 20.0	9 22.5	23 57.5
	20～29才	159 100.0	74 46.5	35 22.0	39 24.5	85 53.5
	30～39才	159 100.0	85 53.5	37 23.3	48 30.2	74 46.5
	40～49才	120 100.0	77 64.2	29 24.2	48 40.0	43 35.8

		全 体	問2. ウィルス検査実施認知			
			認 知 者 計	確 か に 知 っ て い た	何 と な く 知 っ て い た	知 ら な か っ た
全 体		1000 100.0	533 53.3	250 25.0	283 28.3	467 46.7
年 令	16～19才	81 100.0	32 39.5	16 19.8	16 19.8	49 60.5
	20～29才	333 100.0	162 48.6	83 24.9	79 23.7	171 51.4
	30～39才	337 100.0	187 55.5	78 23.1	109 32.3	150 44.5
	40～49才	249 100.0	152 61.0	73 29.3	79 31.7	97 39.0
献 血 経 験 別	献血経験者	585 100.0	387 66.2	213 36.4	174 29.7	198 33.8
	1年以内経験あり	206 100.0	173 84.0	121 58.7	52 25.2	33 16.0
	1年以内経験なし	379 100.0	214 56.5	92 24.3	122 32.2	165 43.5
	献血未経験者	415 100.0	146 35.2	37 8.9	109 26.3	269 64.8
献 血 意 向	献血意向あり	560 100.0	360 64.3	192 34.3	168 30.0	200 35.7
	どちらともいえない	275 100.0	128 46.5	42 15.3	86 31.3	147 53.5
	献血意向なし	165 100.0	45 27.3	16 9.7	29 17.6	120 72.7

	全 体	問3. 生化学検査の重要度							平均	
		重要である小計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	重要でない小計		
全体	1000 100.0	844 84.4	441 44.1	403 40.3	104 10.4	42 4.2	10 1.0	52 5.2	4.22	
性×年齢	男性小計	522 100.0	424 81.2	202 38.7	222 42.5	63 12.1	26 5.0	9 1.7	35 6.7	4.11
	16～19才	41 100.0	30 73.2	13 31.7	17 41.5	7 17.1	4 9.8	-	4 9.8	3.95
	20～29才	174 100.0	146 83.9	62 35.6	84 48.3	16 9.2	6 3.4	6 3.4	12 6.9	4.09
	30～39才	178 100.0	140 78.7	69 38.8	71 39.9	27 15.2	9 5.1	2 1.1	11 6.2	4.10
	40～49才	129 100.0	108 83.7	58 45.0	50 38.8	13 10.1	7 5.4	1 0.8	8 6.2	4.22
	女性小計	478 100.0	420 87.9	239 50.0	181 37.9	41 8.6	16 3.3	1 0.2	17 3.6	4.34
	16～19才	40 100.0	33 82.5	14 35.0	19 47.5	6 15.0	1 2.5	-	1 2.5	4.15
	20～29才	159 100.0	135 84.9	81 50.9	54 34.0	15 9.4	9 5.7	-	9 5.7	4.30
	30～39才	159 100.0	145 91.2	82 51.6	63 39.6	10 6.3	4 2.5	-	4 2.5	4.40
	40～49才	120 100.0	107 89.2	62 51.7	45 37.5	10 8.3	2 1.7	1 0.8	3 2.5	4.38

	全 体	問3. 生化学検査の重要度							平均	
		重要である小計	重要である	どちらかといえば重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	重要でない小計		
全体	1000 100.0	844 84.4	441 44.1	403 40.3	104 10.4	42 4.2	10 1.0	52 5.2	4.22	
年齢	16～19才	81 100.0	63 77.8	27 33.3	36 44.4	13 16.0	5 6.2	-	5 6.2	4.05
	20～29才	333 100.0	281 84.4	143 42.9	138 41.4	31 9.3	15 4.5	6 1.8	21 6.3	4.19
	30～39才	337 100.0	285 84.6	151 44.8	134 39.8	37 11.0	13 3.9	2 0.6	15 4.5	4.24
	40～49才	249 100.0	215 86.3	120 48.2	95 38.2	23 9.2	9 3.6	2 0.8	11 4.4	4.29
献血経験別	献血経験者	585 100.0	490 83.8	259 44.3	231 39.5	60 10.3	26 4.4	9 1.5	35 6.0	4.21
	1年以内経験あり	206 100.0	172 83.5	98 47.6	74 35.9	17 8.3	15 7.3	2 1.0	17 8.3	4.22
	1年以内経験なし	379 100.0	318 83.9	161 42.5	157 41.4	43 11.3	11 2.9	7 1.8	18 4.7	4.20
	献血未経験者	415 100.0	354 85.3	182 43.9	172 41.4	44 10.6	16 3.9	1 0.2	17 4.1	4.25
献血意向	献血意向あり	560 100.0	501 89.5	284 50.7	217 38.8	29 5.2	28 5.0	2 0.4	30 5.4	4.34
	どちらともいえない	275 100.0	217 78.9	93 33.8	124 45.1	48 17.5	7 2.5	3 1.1	10 3.6	4.08
	献血意向なし	165 100.0	126 76.4	64 38.8	62 37.6	27 16.4	7 4.2	5 3.0	12 7.3	4.05

		全 体	問 4 . ウィルス検査の重要度							平 均
			重 要 で あ る 小 計	重 要 で あ る	ど ち ら か と い え ば 重 要	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い	重 要 で な い 小 計	
全	体	1000 100.0	853 85.3	521 52.1	332 33.2	89 8.9	46 4.6	12 1.2	58 5.8	4.30
性 × 年 令	男性小計	522 100.0	436 83.5	260 49.8	176 33.7	50 9.6	26 5.0	10 1.9	36 6.9	4.25
	16～19才	41 100.0	31 75.6	20 48.8	11 26.8	8 19.5	1 2.4	1 2.4	2 4.9	4.17
	20～29才	174 100.0	146 83.9	86 49.4	60 34.5	13 7.5	9 5.2	6 3.4	15 8.6	4.21
	30～39才	178 100.0	148 83.1	87 48.9	61 34.3	18 10.1	10 5.6	2 1.1	12 6.7	4.24
	40～49才	129 100.0	111 86.0	67 51.9	44 34.1	11 8.5	6 4.7	1 0.8	7 5.4	4.32
	女性小計	478 100.0	417 87.2	261 54.6	156 32.6	39 8.2	20 4.2	2 0.4	22 4.6	4.37
	16～19才	40 100.0	35 87.5	20 50.0	15 37.5	4 10.0	1 2.5	-	1 2.5	4.35
	20～29才	159 100.0	136 85.5	89 56.0	47 29.6	14 8.8	9 5.7	-	9 5.7	4.36
	30～39才	159 100.0	138 86.8	81 50.9	57 35.8	14 8.8	7 4.4	-	7 4.4	4.33
	40～49才	120 100.0	108 90.0	71 59.2	37 30.8	7 5.8	3 2.5	2 1.7	5 4.2	4.43

		全 体	問 4 . ウィルス検査の重要度							平 均
			重 要 で あ る 小 計	重 要 で あ る	ど ち ら か と い え ば 重 要	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い	重 要 で な い 小 計	
全	体	1000 100.0	853 85.3	521 52.1	332 33.2	89 8.9	46 4.6	12 1.2	58 5.8	4.30
年 令	16～19才	81 100.0	66 81.5	40 49.4	26 32.1	12 14.8	2 2.5	1 1.2	3 3.7	4.26
	20～29才	333 100.0	282 84.7	175 52.6	107 32.1	27 8.1	18 5.4	6 1.8	24 7.2	4.28
	30～39才	337 100.0	286 84.9	168 49.9	118 35.0	32 9.5	17 5.0	2 0.6	19 5.6	4.28
	40～49才	249 100.0	219 88.0	138 55.4	81 32.5	18 7.2	9 3.6	3 1.2	12 4.8	4.37
献 血 経 験 別	献血経験者	585 100.0	496 84.8	303 51.8	193 33.0	47 8.0	33 5.6	9 1.5	42 7.2	4.28
	1年以内経験あり	206 100.0	170 82.5	106 51.5	64 31.1	19 9.2	15 7.3	2 1.0	17 8.3	4.25
	1年以内経験なし	379 100.0	326 86.0	197 52.0	129 34.0	28 7.4	18 4.7	7 1.8	25 6.6	4.30
	献血未経験者	415 100.0	357 86.0	218 52.5	139 33.5	42 10.1	13 3.1	3 0.7	16 3.9	4.34
献 血 意 向	献血意向あり	560 100.0	495 88.4	322 57.5	173 30.9	30 5.4	31 5.5	4 0.7	35 6.3	4.39
	どちらともいえない	275 100.0	225 81.8	118 42.9	107 38.9	39 14.2	9 3.3	2 0.7	11 4.0	4.20
	献血意向なし	165 100.0	133 80.6	81 49.1	52 31.5	20 12.1	6 3.6	6 3.6	12 7.3	4.19

		全 体	問5. 検査成績非報告の影響			
			献 血 回 数 に 変 化 は な い	と 思 う	献 血 回 数 が 減 る か も し	献 血 回 数 が 減 る と 思 う
全 体		1000 100.0	417 41.7	260 26.0	208 20.8	115 11.5
性× 年令	男性小計	522 100.0	237 45.4	108 20.7	121 23.2	56 10.7
	16～19才	41 100.0	17 41.5	12 29.3	10 24.4	2 4.9
	20～29才	174 100.0	82 47.1	33 19.0	39 22.4	20 11.5
	30～39才	178 100.0	79 44.4	32 18.0	44 24.7	23 12.9
	40～49才	129 100.0	59 45.7	31 24.0	28 21.7	11 8.5
	女性小計	478 100.0	180 37.7	152 31.8	87 18.2	59 12.3
	16～19才	40 100.0	23 57.5	8 20.0	7 17.5	2 5.0
	20～29才	159 100.0	53 33.3	53 33.3	31 19.5	22 13.8
	30～39才	159 100.0	62 39.0	48 30.2	33 20.8	16 10.1
	40～49才	120 100.0	42 35.0	43 35.8	16 13.3	19 15.8

		全 体	問5. 検査成績非報告の影響			
			献 血 回 数 に 変 化 は な い	と 思 う	献 血 回 数 が 減 る か も し	献 血 回 数 が 減 る と 思 う
全 体		1000 100.0	417 41.7	260 26.0	208 20.8	115 11.5
年令	16～19才	81 100.0	40 49.4	20 24.7	17 21.0	4 4.9
	20～29才	333 100.0	135 40.5	86 25.8	70 21.0	42 12.6
	30～39才	337 100.0	141 41.8	80 23.7	77 22.8	39 11.6
	40～49才	249 100.0	101 40.6	74 29.7	44 17.7	30 12.0
献 血 経 験 別	献血経験者	585 100.0	274 46.8	153 26.2	110 18.8	48 8.2
	1年以内経験あり	206 100.0	112 54.4	53 25.7	28 13.6	13 6.3
	1年以内経験なし	379 100.0	162 42.7	100 26.4	82 21.6	35 9.2
	献血未経験者	415 100.0	143 34.5	107 25.8	98 23.6	67 16.1
献 血 意 向	献血意向あり	560 100.0	249 44.5	164 29.3	106 18.9	41 7.3
	どちらともいえない	275 100.0	110 40.0	73 26.5	58 21.1	34 12.4
	献血意向なし	165 100.0	58 35.2	23 13.9	44 26.7	40 24.2